

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

協会創立 20周年に 「金谷体制」がスタート 2016年 年次総会開く

当協会の第20回総会が4月23日、船橋市の船橋グランドホテルで開かれた。会員39人(委任状58人)が出席。議長に西阪知晃・理事を選出し、新旧両年度の事業、決算報告(案)、監査報告書などが承認された。役員改選で、3期6年会長を務めた宗宮好和氏が退任し、専務理事の金谷誠一郎氏が会長に就任するなど新役員が選出された。この後、新理事の木戸裕氏(前国立国会図書館専門調査員)が「ドイツ大学改革の今」を記念講演し、注目された。(新役員と講演要旨は3面に)

会長就任にあたり 金谷 誠一郎

会長就任で、改めて気を引き締めています。私は当協会設立以来の会員ですが、企業を退職後10余年間東京の公益財団法人・日独協会に勤務し全国60の日独協会の活動状況を見て来ました。

その中で感じたことは、当協会会員のレベルの高さと行動力、実行力です。具体的には①年間行事はドイツ語講習会などほぼ2か月ごとに実施②千葉県とデュッセルドルフ市との関係もあり、同市のJapan-Tagに参加する訪独団を定期的に派遣③2か月毎に会報紙を発行、2年前からはカラー版4~6ページとして内容の充実化を図っている-などです。

ただ一つ気になるのは、他の協会同様に会員の高齢化です。昨秋、連合会の古いメンバーですが、年会費未納の協会に漸く連絡がつき、愕然としました。「会員は私一人になり、私も間もなく定年になるので協会は消滅します」と。以来、私は先輩に立派に育てていただいたこの協会をいかに持続させるかが最大の課題だと考えるようになりました。

その後、某大学のドイツ語の先生から、2~3年前まで学生の間で人気のあった中国語、韓国語が日本との関係悪化で翳りをみせ、欧州におけるドイツの優位性もあり、ドイツ語を履修する学生が急増、就職率も上昇中と聞きました。また、東京・日独協会主催のドイツ語関連講演会には予想の3倍以上の聴衆が集まりました。会員の皆様は友人、知人で独語やドイツに興味を持っている同年配の知人、10才以上若い人達にも入会を勧めていただきたいと思います。お願いする次第です。

新旧会長ご挨拶

会長を退くにあたり

名誉会長 宗宮 好和

2009年平尾浩三前会長の代行業を仰せつかり、翌年に会長に就任して3期6年が過ぎました。この間、会員の皆様はじめ、ドイツ大使館、千葉県庁ほか各種関係



<金谷新会長(左)と宗宮前会長>

者の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。お蔭様で平尾前会長から受け取ったバトンをどうか新会長の金谷誠一郎氏に引き継ぐことができました。

金谷会長は当協会発足のときから専務理事としてご活躍され、とくに、協会通信『Die Eiche』の編集を多年にわたって続けて

こられました。また、「公益財団法人・日独協会」でも要職をつとめられ、国内各地の日独協会だけでなくドイツ各地の独日協会の事情にも通じておられます。

当協会の活発な活動は全国の日独協会のなかでも遜色のないものと思います。しかし、唯一の弱みは若手会員(35歳以下)がいないことです。今年度ドイツの「独日青少年協会」のカウンターパートともなる

「日独ユースネットワーク」が発足し日独協会連合会に加わることになりましたが、残念なことに当協会は蚊帳の外にあります。ドイツ人留学生に対してホームステイや懇親会・イベントへの招待といった試みも、こちら側に同世代の会員がいなくてはうまくいきません。どうしたら若い人々に当協会が魅力あるものができるか、私自身が実現できなかったことを、押しつけるようで心苦しいのですが、「公益財団法人・日独協会」のもつノウハウに詳しい金谷会長にぜひともご尽力をお願いしたいと思います。

千葉県日独協会 2015(平成27)年度収支決算報告(案)
(自)2015年4月1日 (至)2016年3月31日

一般会計

(単位、円)

	勘定項目	当初予算	実績	摘要
収入の部	2014年度繰越	61,419	61,419	
	法人入会金	—	—	
	法人年会費	50,000	50,000	5社
	個人入会金	16,000	8,000	4名
	個人年会費	373,500	373,600	個人・家族会員。(3月末会員:個人119、家族7、名誉1、顧問4)
	行事収入	65,000	73,984	ビール祭、会員旅行、ドイツ語講習会、等
	総会懇親会費収入	232,000	208,800	5/16総会懇親会
	寄付金	140,000	1,211,970	65会員・家族より
	受取利息	50	96	
	雑収入	—	8,003	日本デー立替分戻り、習志野市冊子6冊譲渡、等
	収入の部合計	937,969	1,995,872	
支出の部	協会通信作成費	105,000	72,244	隔月発行(6回)
	通信費	188,580	166,621	郵送料(ゆうメール活用)、葉書、等
	行事支払諸費用	15,000	8,700	忘年会、新春講演会、等
	会議費	35,000	57,334	公民館、連合総会、総会、新春講演会
	車代、謝礼	60,000	40,584	総会講師、新春講演会講師
	団体年会費	50,000	50,000	千葉コンベンション、全国日独、千葉市国際交流協会、船橋市国際交流協会
	印刷文具費	63,000	18,113	印刷、会議用コピー、その他(大型封筒代無し)
	総会懇親会支払	216,000	205,200	総会懇親会
	慶弔費	10,000		
	交際費	3,000	16,400	自衛隊へのお礼等
	寄付金支払	20,000		
	ホームページ管理費	70,200	59,400	2015.4月~2016.2月
	事務経費	40,000	40,000	
	備品購入費		122,769	スピーカー・アンプ、マイク、スタンド
	記録費	2,000		総会での集合写真等
	交通費	24,000	19,280	いわき全国総会、講師タクシー代
	宿泊費	16,000	13,900	いわき全国総会
	雑費	9,300	9,194	銀行振込手数料、等
	記念行事積立金へ繰入		600,000	
		支出の部合計	927,080	1,499,739
	次期繰越金	10,889	496,133	
	支出の部総合計	937,969	1,995,872	

<2015(平成27)年度 千葉県日独協会事業報告>

- 1・主な会議◇運営委員会：計12回、船橋市市民活動サポートセンター◇理事会：4月25日船橋市西部公民館
◇年次総会：5月16日、船橋グランドホテル
- 2・主要行事：◇定例行事：①総会記念講演会 5/16 船橋グランドホテル。講師、スーザー協会会長・谷村政次郎氏「日独軍楽交流史」②ビール祭り 8/29 マイネクライネ(蔵前)③第21回ドイツ軍人慰霊祭 11/15 船橋市営習志野霊園④クリスマス&忘年会 12/12 コールポニョポニョ⑤新春講演会 2016年1/23 千葉市生涯学習センター 講師・ドイツ大使館一等書記官 F・イエーガー氏「難民とテロ試練に立たされるドイツとヨーロッパ」◇文化・教養行事：①ボトルシップ研究会(習志野俘虜収容所の調査・研究)「祖父ユリウス・ニューアスの体験」翻訳 8/8 完成、HPで公開、例会 7/18~2016年3月まで4回開催②ドイツ語講習会：10/30~12/4 計5回 船橋市中央公民館 講師・木戸芳子氏(当協会理事、東京音楽大教授)テキストは「(ドイツの)国籍取得試験問題」③後援：「第38回習志野第九演奏会」12/20
- 3・特別行事：①ドイツ人奨学生歓迎 Home Party 8/20 伊東惇子・会員宅②木更津高専と交流のドイツ人生徒の Home Stay 9/4-5 ③いちかわドイツデー(後援と写真展示)10/4 ④習志野ドイツフェア(協力と写真展)10/17-18 ⑤会員懇親旅行 10/31 ドイツ人技師指導の登美丘ワイナリー、リニアモーターカー実験線等見学
- 4・「Die Eiche」協会通信の発行(年6回)
- 5・千葉県日独協会ホームページの公開：2013年1月より公開し(<http://jdg-chiba.com>)、主要行事、記念行事、Die Eiche等を掲載し、原則毎月更新・管理している。
- 6・全国日独協会連合会年次総会：4/17-18、いわき勿来の関「吹風殿」で。橋口副会長、渡部理事が出席

変貌するドイツの大学—伝統とグローバル化のはざままで

総会記念講演会で、木戸 裕氏（前国立国会図書館専門調査員）語る

創立 600 年を超えるドイツ（語圏）の大学は 14 校。プラハ、ハイデルベルク、ケルンなど名門大学などがこぞってグローバル化、制度の共通化、アメリカ化の波に押されて歴史的な改革を進めている。ドイツの教育を長年にわたり調査してきた木戸氏が EU(欧州連合)とともに進める大学の国境を超える取り組みを興味深く語った。

〔ボローニャ・プロセス〕（以下、要旨）

現在ヨーロッパでは、ボローニャ・プロセスと呼ばれる高等教育改革が進行中である。これは EU 加盟国にとどまらず、ロシアを含む 48 か国が参加して欧州の高等教育を世界最高水準に高めようという試みである。ヨーロッパの大学の間を自由に移動でき、ヨーロッパのどこの大学で学んでも共通の学位、資格を得られる「ヨーロッパ高等教育圏」を構築しようというものである。制度面では、学部、大学院という高等教育の基本構造の整備、ヨーロッパ共通の単位

講師略歴：1949 年生まれ。東北大学院教育学研究科博士課程退学、77 年国立国会図書館勤務(調査・立法考査局文教科学技術課長、主幹、専門調査員)、2010 年同館退職後大学入試センター客員研究員、東北大・上智大・東京大学院等で非常勤講師。主著「ドイツ統一・EU 統合とグローバルズム」(2012 年、東信堂)

制度の開発、ヨーロッパレベルでの高等教育の質保証システムの確立などが目指されている。

ドイツなど多くのヨーロッパ諸国の大学では、アメリカに見られる学士、修士、博士という段階化された高等教育の基本構造は採用されてこなかった。何単位とったら卒業といった単位制度も設けられていなかった。こうしたヨーロッパの伝統的な大学像が、世界的な大学改革の潮流の中で大きな変貌をとげている。その流れの中心に位置づけられるのが「ボローニャ・プロセス」であり、それはドイツの大学改革にも大きな影響を与えている。

〔ドイツ大学の変貌〕

ドイツの大学の特色として①大学入試はない②国家試験の合格が卒業を意味している③大学教授となるためには「大学教授資格」を取得しなければならない④州立大学が中心で授業料は徴収されない⑤基本的に大学間に格差はない、といった点が言われてきた。

こうしたドイツの大学も、次のように変貌をとげている。①「入学制限」を導入せざるを得なくなっている②段階化された高等教育の構造が導入され、単位を取得することにより卒業する仕組みとなった③「大学教授資格」が必須でなくなり、ジュニア・プロフェッサーの制度が新設された④アメリカタイプのビジネススクールなど私立大学が少なからず創設されるようになった⑤「エリート大学」の選抜や「ランキング表」の登場など格差を認める動きも出てきた。授業料は長期在学者を中心に一定額の授業料が徴収されたが、現在はいずれの州も再び無償に変わっている。大学改革の要因として「グローバル化」「制度の共通化」「アメリカ化」といったキーワードがあげられる。

〔ヨーロッパの統合とドイツの大学改革〕

欧州全体では、2010 年から「欧州 2020」という包括的な経済社会政策が推進されている。そこでは「知的な成長」「持続可能な成長」「包摂的な成長」が目指され、これを教育面から支える「ET 2020」が策定されている。ドイツの大学改革もこうした欧州全体に関わる大きな流れの中で見ていく必要がある。目下「ひとつのヨーロッパ」を視野に置いた一連の高等教育改革が進行しているが、大学改革の方向性と中身については「評価」と「競争」を主体とするアメリカ型大学へ向かっているようにも思われる。（要旨は、木戸氏）



■2016 年度・新役員（下線が役職変更、○印が新任：任期は 2018 年次総会まで = 敬称、略）

◇名誉会長：平尾浩三、宗宮好和 ◇会長：金谷誠一郎 ◇副会長：橋口昭八、須古正恒 ◇専務理事：杉田房之（事務局長兼会計担当） ◇常任理事：田中正延、二見理一、吉川三朗 ◇理事：伊藤惇子、岡村三郎、尾崎裕一、小野浩、川口正光、北村侑三郎、○木戸裕、木戸芳子、近藤弘、坂本隆夫、坂本宗秋、澤井秀之、○土屋有里、友野信善、内藤敏子、○中野康行、西阪知晃、二宮一男、野村陽子、堀江弘隆、松江美代子、宮藤宏、渡部武弘、綿貫尚 ◇監事：荒川喜久代、小野寺輝孝 ◇事務局：宇賀博 ◇顧問：林静誠、カーステン・ブッシュ（ドイツ連邦共和国大使館・空軍大佐）、兒玉泰幸（陸上自衛隊第一空挺団長兼習志野駐屯地司令 陸将補）、花井清 ◇名誉会員：白井日出男、田久保忠衛 ■同 運営委員会委員：金谷誠一郎、橋口昭八、須古正恒、杉田房之、田中正延、二見理一、吉川三朗、土屋有里、野村陽子、渡部武弘、宇賀博

**感動の連続だった
Düsseldorf 日本デーと
古城街道の旅
協会創立 20 周年記念事業**

22人が参加した「創立20周年記念ドイツ旅行」は5月20日～29日の8泊10日で実施された。先ず21日デュッセルドルフの「日本デー」(別掲)に参加しない14人は、バスでボンのベートーベンハウス、アデナウアー元首相の家などを見学。夜は、独日協会アム・ニューダーラインの協力で市庁舎の3階からライン川での盛大な花火

を眼前に堪能した。「友好を広め深める日本デー ラインの夜に花火眺めり」

22日以降は貸し切りバスで南下し、バートホンブルクでローマ時代に築かれたリーメス(辺境防壁)をじっくり見学し、ハイデルベルクへ。フェルスターの戯曲「アルトハイデルベルク」と、ケンペルが日本から持ち込んだ銀杏をうたったゲーテの詩に想いを馳せた。ホルンブルク城ではドイツで一番有名な騎士「鉄腕ゲッツ」の武勇を偲んだ。



「新緑のネッカーの流れ見下ろすや 古城に想う中世の騎士」

普通、日本の観光客がほとんど行かない町(バート・ビンブヒェン、コーブルク)やクロスターヴェルテンブルク修道院(写真右上)などを訪れた。その後ドナウ川沿いに東へ「古城街道」を走りニュルンベルク、クルムバッハ、ミュンヘンに中世ドイツの歴史散歩を楽しんだ。

「流れ急ドナウを上る船旅や ビール楽しむ初夏の陽射しに」



中世のお城や教会の見学以外に、リーメンシュナイダーの傑作彫刻を2か所(ローテンブルクの聖ヤコブ教会、バンベルク大聖堂=写真、右)で直接目に



し大感激。昼・夜は各地の地ビールを味わい、コーブルクでは20年間この街で音楽生活を送る恵(めぐみ)さんという女性と記念写真を撮るハプニングも(写真、左)。27日の自由時間では、ザルツブルクまでの遠征組や、ダッハウの強制収容所を見に行く者など思い思いの旅を楽しんだ。盛りだくさんのスケジュールを手際よくナビゲートしてくれた近畿ツ

ーリストの佐藤香苗さんには、参加者は全員大感謝。いっぱい思い出とおみやげ、もう一度ドイツ訪れたい気持ちを抱き帰った。

(杉田 房之)

15 回目の日本デー参加

今年で15回目となる日本デーは5月21日にデュッセルドルフ市アルトシュタットのライン河畔で開かれた。好天の下、日本文化紹介と夜の花火に同市や近郊の町などから、日本デー名物となったコスプレの少女たちを含め市民70万人が押しかけた。

わが旅行団はこの日、日本デー参加と、ボンなどの観光の2組に。日本デー参加組8人は正午より17時半まで2チームに分かれ、ラインプロムナードに並んだ数十のテントの一つに設営された千葉県ブースで、県の観光、物産のPRや折り紙など日本文化紹介、ジャンケンゲーム(写真、右下)などに参加、千葉県出張者、他の支援組と共に押し寄せる市民たちに文字通り汗まみれで対応した。

夜は全員10時過ぎに市の好意により準備された市役所3階の一室からラインの夜空を飾る花火を観覧、打ち上げのたびに湧き上がる70万市民のどよめきを体感しつつ30分の貴重な時間を楽しんだ。

深夜心配された帰り道も、興奮冷めやまぬ市民に混じり肅々と地下鉄の駅に向かい、案外すいていたUバーンで無事ホテルに戻った。日本デー組、観光組、全員素晴らしいドイツ5月の第一日を体験した。千葉県は今年から交流の間口を広げ、市博物館で民俗文化紹介も行った。



(橋口 昭八)



ザールブルク砦とリーメス

念願の砦とリーメスはむせ返るような新緑の中にあった（写真、上）。2000年近く前に古代ローマ帝国がゲルマン民族の侵入を防ぐために築いた国境線でもあった。19世紀中頃から綿密な調査の上、1898～1907にかけて復元され、11年前世界遺産に指定された。

レンガの遺跡が点在する中、巨大な城門（同、下）が出迎えた。高さ5m程の城壁内は家族連れ、見学の生徒たち、旅行客で賑わっていた。ここのカフェで古代ローマ時代のビールと肉を食べさせるが、店の名前が何故か、die Taberna。



防御壁に沿った空堀、土塁の上を歩く。神が宿る、と古代ゲルマン民族が信仰したという巨大なアイヘ（カシワ）が聳え立つ。

ここで、幾度となく激しい戦闘が行われ、時には食料や農具などの交易もあったとか。現在のドイツ国内だけでも548km、900の監視塔があったという。古代ローマの富と権力の凄さが偲ばれるが、まさに“兵どもの夢の跡”か。

ローマ軍の盾と木剣を持った坊やに出会った。「キミは兵士かい」と聞くと、はにかみながら首を横に振りママの後を追っていった。

（田中 正延）



ドイツと私

親近感を覚えたモノクロの町

中野 泰行

フロイデンベルグ(Freudenberg)。ドイツ中部、ノルトライン・ヴェストファーレン州にある人口18,000人ほどの町は、私が持つ「ドイツのイメージ」とはまるでかけ離れたたまたまだった。

フランクフルトからゲーテ街道、ベルリン、ロマンティッシェ街道などを巡るツアー最後の訪問地である。昨年秋、私には初めてのドイツ旅行だった。この町の歴史は古く、紀元前500年から紀元後200年くらいには人が住み始めたという。鉄鉱石を含んだ土壌に目をつけたのではないかという説もあり、丘の上には古城址もある。16、17世紀に2度の大火で町が全て焼失してしまったが、町にはお金がなく住民は焼け残った黒ずんだ木を拾い集めて再利用し、壁は安価な白いペンキで塗装して自分達で木組みの家をつくりあげたと伝えられている。

観光案内所の向かい側にある急な階段を登っていくと、小高い丘にある保養公園Kurparkに行き着く。木製のテーブルにいくつかのベンチ。眼下に4、50棟の建物が見える。屋根がすべて同じ形で、同じ方向へ整然と並んでいる。山の麓に近いところに時計台のある教会も見える。ドイツでは木組みの家はほとんどが赤や茶色の色をしているものが多いのに、モノトーンでずらりと並ぶこの光景は壮観である。

その時、私はなぜか故郷の「京都美山かやぶきの里」を思い出していた。京都の北約50kmにあり、1993年重要伝統的建造物群保存地区になった。谷間の穏やかな傾斜地に民家など40戸ほどの茅葺き屋根の建築物（江戸期）が建ち並ぶ。フロイデンベルクも2004年以降全域が保護文化財に指定された。どちらも歴史的景観の保存度が高く、住民の努力がうかがえる。この素朴で静かなたまたまに僕はとても親近感を覚えた。

丘を下りて、メインストリートを歩いた。やっと車がすれ違える程度の道幅で、200mで突きあたりになる3本の通り沿いにこれらの建物が並ぶ。観光案内所の隣に併設されている土産物店の女性従業員は、ここはいずれ、人気が高くなるようなことを言っていた。



<特異なたまたまの町> 筆者撮影

ライプツィヒの事件は、衝撃だった。昼食で立ち寄った市内のレストランでツアー仲間の女性がバックを盗まれたのだ。テーブル席でコートを脱ぐほんの数秒の間に床のバックがなくなった。治安が比較的良好というドイツで、“なんてことだ！”。後日、地元警察からの連絡でレストラン近くのごみ入れからこのバックが見つかった。パスポートだけが残っていた。ドイツでもどんな人がいるかわからないってことだ、と実感した。

この“ドイツ初体験”で私は驚き、戸惑い、そして多くのことを学んだ。有料トイレの多いこと、レストランで無料の水がないことなどだ。でも、また訪れたい国、それがドイツです。その時のために、当協会のドイツ語講座や、講演会などにできるだけ参加して知識を蓄えたいと願っている。

■2016年 全国日独協会連合会 年次総会開く

総会は4月22日(金)~23日(土)、福岡市のKKRホテル博多で開かれた=写真。25協会(61人、委任状14協会)が参加し、当協会から渡部武弘・理事が出席した。



○全国日独協会連合会会長代行・木村敬三氏と西日本日独協会代表・池田紘一氏の挨拶に続き10:30から総会。

○議案(詳細な議事録については日独協会連合会HPを参照)

・承認事項:1. 2016年全国日独協会連合会役員改選:会長、幹事2名、日独協会理事) 2. 2015年度決算及び監査報告並びに連合会年会費納入状況、会費納入;45協会、会費未納;15協会、退会;5協会 3. 全国日独協会連合会規約一部改正案;会費、役員を選任、役員の仕事、連合会総会、委員会の設置等の各項目 4. 全国日独協会連合会副会長会議規定の提案 5. 全国日独協会連合会加盟申請;・大分日独協会、事務所所在地;竹田市商工観光課・日独ユースネットワーク、事務所所在地;(公財)日独協会内 6. 各地日独協会主催の『記念総会・イベント等』への連合会役員参加要請取扱規程の提案;ぐんま日独協会からの提案 7. 2016年度予算案 8. 2017年連合会総会会場:恒例に従い東京に決定。2018年は石川県金沢市の予定。以上の議案は賛成多数で承認された。

・報告事項:1、連合会副会長;重任9人、新任1人

・各協会からの現況報告:重要事項に絞り約3分間程度で報告が行われた。

*重要事項:日独ユースネットワークの全国日独協会連合会への加盟が承認され、若者の勧誘と日独青年交流の活性化が期待される。当協会も会員や知人を通し、若者の勧誘・入会により更なる発展に努めましょう。

○懇親会:総会終了後18時から。主管協会長、全国日独協会連合会会長代行の挨拶に続き、懇親会が行われた。奈良日独協会理事・岡田由美子氏のソプラノ演奏があり、地酒を堪能した懇親会であった。(渡部武弘)

新入会員紹介



◇加来 英彦(64)=船橋市坪井東

◇勝見 浩明(54)=船橋市松ヶ丘

◇田原 加奈子(35)=市川市市川南

(敬称略、順不同)

◇これからの催し

催しもの	開催日	時間	場所	内容など
第27回ポトルシップ研究会	6/18 土	15:30 -17:30	船橋市海神公民館 船橋市海神6-3-36 Tel: 047-420-1001	テーマ「100年前のソーセージあれこれ」講師:蜂谷 正氏 (デリカッセンDANKE店主)/定員:15人/会費:1000円・1人/申込先:須古正恒・座長 e-mail:suko15921@jcom.zaq.ne.jp/携帯080-1139-8544

◇会員の活動

催しもの	開催日	時間	場所	内容など
オムニバスコンサート	7/9 土	16:00 -16:30	佐倉市民音楽ホール (京成うすい駅徒歩5分)	土屋有里・当協会理事らによるピアノデュオ アザレア/モーツァルト作曲2台のピアノのためのソナタニ長調K.448(無料)
千葉フォーラム歴史・文化の会	7/19 火	15:30 -17:30	船橋市中央公民館 船橋市本町2-2-5 Tel: 047-434-5551/	主宰:須古正恒・当協会副会長、講師:加藤直日子氏(会員) 演題「バルト3国とイラン人旅」

訂正 前号<Die Eiche 100号一覧>記事(4頁)中、55号「講演会&講師」の「石崎英二郎・慶大名誉教授」とあるは「岩崎英二郎・慶大名誉教授」でした。お詫びして訂正します。

編集後記 ◇年次総会で、金谷会長による新体制が発足しました。今年は協会創立満20年。秋の記念祝賀式典まで幾つかの事業の準備を急ぐ必要があります。課題も多く、新旧会長が挙げる会員の高齢化は最大の課題。若い人への呼び掛けは難しい。彼らに魅力ある組織、楽しく有意義と感じさせる活動内容とは。年齢層、活動内容に応じたグループ化も必要か。節目を迎えた協会の“踏ん張りどころ”です◇記念事業として実施したドイツ旅行は大成功でした。恒例のDüsseldorf日本デー参加、幾つかのオプションツアー、自由行動を多彩に組み合わせた旅程。何よりも、現地日本人ガイドが驚いた“まず日本人が来ない所”の数々。事前勉強会と併せて「内容豊かな旅」「大満足だった」と会員外の参加者からも声が寄せられました。協会関係各位、近畿ツーリスト、同社添乗員に感謝申し上げます。(M.T.)